

# 視神経脊髄炎患者の再発リスクに関する 単施設・後方視的観察研究

栗原可南子 藤岡 伸助 三嶋 崇靖  
合馬 慎二 坪井 義夫

福岡大学医学部脳神経内科

要旨：視神経脊髄炎／視神経脊髄炎スペクトラム（NMOSD）は中枢性脱髄疾患の一つで、多彩な臨床症状を呈し、再発率が高い疾患である。視神経炎は重度の視力障害や視野障害を引き起こし、脊髄炎は脊髄障害レベルに一致した感覚障害、対麻痺、膀胱直腸障害を引き起こす。今回我々は、福岡大学病院脳神経内科で診療した NMOSD 患者の特徴を後方視的に調査すると共に、再発を繰り返す群のリスク因子を検討した。患者の特徴として全国平均よりやや高齢発症で、脊髄炎での発症が多かった。2回以上再発した群では、発症年齢が若年であること、罹病期間が長いことが関与していた。再発リスク因子を明らかとすることにより、より適切な治療介入につながるものと考ええる。

キーワード：視神経脊髄炎，視神経脊髄炎スペクトラム障害，再発リスク，後方視的観察研究